

## 【別紙】

## 令和3年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

普及所等組織名: 評価課題名	取組の概要	点数	結果	委員からの主な意見
<b>鳥取:</b> 飼料作物の増産と品質改善による飼料作物生産体制の強化 ～SGSの生産体制確立支援～	畜産飼料用米の増産・品質向上・安定共有体制を目指し、鳥取県畜産農業協同組合の所有するもみ殻サイレージ(SGS)施設の効率的な活用を行う体制づくりを進めるとともに、さらに、SGS飼料の利用者を拡大していくための支援活動。	16.0	◎	・今後益々輸入飼料は高値水準となる事が予想されるので、代替となるSGSの安定生産利用拡大につなげてほしい。 ・中部、西部の畜産農家、稲作農家への発信をもっとしてほしい(琴浦町に住んでいるがSGSは始めて知った)。
<b>八頭:</b> 「輝太郎」の栽培面積拡大及び生産安定と柿産地の維持発展支援	八東町は古くからの柿産地であるが後継者不足等で面積減となっている。早生の甘柿品種「輝太郎」の導入推進の動きも鈍化している。 そこで、地域の定年帰農者などにも目を向け、団地造成や研修会開催など柿産地を守る取り組みを支援。	17.0	◎	・定年帰農を含め、担い手確保、「大門地区プロジェクトの会」の設立等の成果が将来や次の取組につながるようさらに努力してほしい。 ・輝太郎の市場拡大には大きな可能性があるので安定生産と生産者の拡大につながる取組を続けてほしいです。
<b>倉吉:</b> 農作業改善の推進	農業を継続的に行うには省力化や身体負担軽減などの対策を講じていく必要がある。 普及所は管内の生産者(ナシ、白ネギ、スイカ等)が快適に農作業が出来る機器の紹介、事例調査、理学療法士を招いた研修会などを開催支援し、YouTube等の新しい媒体を使い情報発信。	16.2	◎	・工夫事例や情報を資料にまとめて生産者が活用できるようにする取組は良い。 ・最新の情報発信のツールを活用した斬新な取組であり、高く評価できた。
<b>東伯:</b> 琴浦梨産地の担い手確保の推進支援とジョイント栽培の普及推進	琴浦梨生産部は管内有数の梨産地であるが、平成30年度の生産部員へのアンケート調査によると、今後10年で栽培面積は1/3、生産者数は1/5にまで縮小するという非常に厳しい結果であった。 そこで、普及所はジョイント栽培の技術普及を核にして新規就農者の確保や受入れ体制の整備などを町、JA、生産部と連携して支援。	15.9	○	・町報を活用したPR(生産者募集やジョイント栽培)は良い方法と思う。 ・地域内外の新たな生産者を確保するため、潜在的に存在する候補者に「収入につながるイメージ」を持ってもらえるような情報提供に一層注力してほしい。
<b>西部:</b> 白ねぎ産地の強化 ～グループ活動を通じた若手農業者の育成～	鳥取西部農協管内は県内の白ネギ出荷量の約4割を占める産地で、近年、白ネギの新規就農者が増えている。 普及所は弓浜地区の白ネギを生産する新規就農者や若手グループを対象に勉強会や集まる機会をつくり、若手生産者の育成を支援。	14.8	○	・産地維持には若手後継者の育成が急務。研修や仲間づくりの機会・場を提供しながら若者グループの組織化を進めてほしい。 ・産地、ブランドの発展には生産組織(グループ)の一体感が必要です。組織活動に出てこない生産者に出てきてもらう工夫、つながる工夫を望む。
<b>大山支所:</b> 酪農家の飼養環境の改善と担い手対策 ～親元就農や第三者継承による担い手と経営安定に向けた支援～	大山町は県内有数の酪農地帯である。そのほとんどが親元就農(子供への代替わり)で経営が引き継がれるが、血縁関係のない第三者に酪農経営を継承する第三者継承の希望者が令和2年に現れ、マッチングによって合意した。 酪農では県内初の事例であり、普及所は継承元、継承者、関係機関をコーディネートしながら就農を支援。	17.4	◎	・第三者継承について県(普及所)の係りについて普及所は両者のコーディネーターの役割は担うべきと思う。農業委員会を含めてノウハウを蓄積して欲しい。 ・第三者継承事例は今は多くなるように思う。普及所は何でも相談できる場所だからこそ短期間での継承ができたと思う。
<b>日野:</b> 中山間地に適応した水田農業の担い手育成 ～日野郡中山間営農ネットワーク協議会の取組～	日野郡は食味が良い米産地であるが、過疎・高齢化が進む中山間地域で若い後継者の確保が喫緊の課題であり、管内の農業法人が「日野郡中山間営農ネットワーク協議会」を組織し対応を協議している。 普及所は日野高校や農業大学校などの教育機関と連携し、若い後継者の確保や受入れ先の雇用環境の整備を支援。	15.8	○	・法人の労働力確保にとどまらず将来の経営者の確保育成につながるよう期待している。 ・担い手を目指す若手、農業経営体への就職を希望する若手は雇用条件と共に先進的取組、付加価値の高いサービスに大きく興味を持たれると思う。 ・地元の学生さんとの連携が素晴らしいと思った。経済面での課題もあるだろうがスマート農業の推進にも注力してもらいたいと思う。

## 【点数結果の凡例】

- ◎ 16点以上 : 優れた取組である  
○ 12点以上16点未満 : 妥当な取組である  
△ 12点未満 : 成果に乏しい取組である